

2017年10月 近畿旧友会ハイキングクラブ「燦歩会」例会（第463回）

鬼伝説の吉備路と備中高梁を巡る 1泊2日(岡山)

とんでもない季節外れの超大型台風21号が直撃かも？1週間前から幹事はヤキモキ。旅行社は被害がない段階での中止措置はせず、「顧客の判断でキャンセルして」とつれない返事。

今回の旅のテーマは、中国地方の「吉備路の鬼伝説と天下分け目の歴史の舞台を訪ねる」です。

10月22日（日）風雨が強まれば安全最優先でと、男性17名、女性8名の参加者は、大型観光バスで、地雨の中、大阪を出発しました。

バスは山陽自動車道を走り、岡山・総社ICで降り、日本三大稲荷の一つとされる最上稲荷に到着。

最上稲荷神社は「廃仏毀釈」の被害を逃れ、山門もあり鳥居もある「神仏習合」の立派な本殿でした。

参道の店で昼食、岡山名物「祭りすし」きつねうどん付きです。さすがにお稲荷さんですね

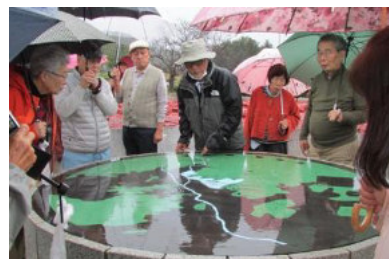


最上稲荷



祭りすし

高松城址パノラマ図石



築堤の標識

昼食後、備中高松城に、高松城は備前・備中の中で毛利軍の守りの主城で難攻不落、攻めあぐねた秀吉は黒田官兵衛の策を受け入れ、全長3Km、高さ7mの堤防を築き、足守川の水をひきこみ高松城を水中の浮城にしました。

いわゆる「水攻め」です。その最中に本能寺の変、秀吉は毛利と和睦し

「大返し」で信長の仇を打ち天下人への契機となりました。

今回の旅のメインの一つが鬼ノ城(キジヨウ)でしたが、長雨と台風でアプローチ道路が懸念され、登城を断念。鬼ノ城は、標高400mの城山に列石と土を突き固めた城壁2.8kmの朝鮮式山城で総社平野を一望できる絶景の地です。残念。

この地にて、悪さが絶えない吉備の王・温羅(ウラ)を、ヤマト朝廷の皇子・吉備津彦命が征伐した戦いがあり、昔話「ももたろうの鬼退治」のモチーフになったと言われています。

温羅(おに)が拠点としたのが鬼ノ城です。



鬼ノ城 西門(パツより)



吉備津神社本殿



回廊

温羅（おに）との戦いに勝利した吉備津彦命（ももたろう）が祀られた吉備津神社は、本殿・拝殿は100坪を超える規模で、比翼入母屋造りで国宝に指定されています。400mの回廊の先には御釜殿が鎮座し、温羅の首が埋められた上に置かれた大釜に玄米を入れてゆがき、釜の鳴る音で吉凶を占う鳴釜神事の厳かな雰囲気にも触れることができました。

鬼ノ城のガイドを依頼していたボランティアの熊城さんと合流、備中国分寺と、吉備路の各所と、鬼ノ城の代替として寶福禅寺も案内していただきました。

景観保護のため電線が地下埋設されて、赤米の稲田に囲まれた雨の国分寺はしっとりとした佇まいを見せてくれました。国の重要文化財に指定されている、五重塔は高さ34.32メートル、当初は三重塔で計画されたので、3層まではケヤキ材、4・5層はマツ材が主体で、江戸時代後期の様式で、その素な感が好ましく思えました。



国分寺五重塔



寶福禅寺

寶福禅寺に向かう途中、周辺の古墳群と鯉喰神社や矢喰宮、矢に射抜かれた「おに」の目から流れた血吸川など温羅伝説の舞台も詳しく説明いただきました。

寶福禅寺は雪舟ゆかりの寺で、禅の修行を怠り絵ばかり描いていた、雪舟少年を住職は本堂の柱に縛りつけましたが、後刻、その足元には一匹の鼠が動いていました。それは、雪舟少年が足指をつかって、こぼした涙で描いたものだったのです。

雪舟古事絵





瀬戸大橋 ホテルから

宿は瀬戸大橋を眼前の鷲羽山です。単純弱放射能泉でゆったりし、ハロウィンさながらの被りものでカラオケ宴会。大いに語り・唄い・笑いました。

翌朝は昨日の大雨が嘘のよう、瀬戸大橋越しに日の出が見られるほどに、意気揚々と備中高梁へと向かいました。

夜明けにびっくりポン？ ホテルのすぐ横の竹藪ががけ崩れ、竹がはじけてポンポンと花火のようなけたたましい音でした。

いよいよ備中高梁へ、高速道路から鬼ノ城の展望台と城壘を眺めながら気分いい走りです。道沿いの高梁川は堤幅いっぱいまで増水し、激しい流れを見せていました。

備中高梁では、恒例の「悠々組」と「健脚組」の2組に分かれて観光しました。

悠々組 高梁の町散策

高梁の地元のガイドさんの案内で、山城・備中松山城のふもとに広がる町を散策しました。歩いたコースは、日本の道百選に選ばれ、町並みは備中の”小京都”と呼ばれる美観地区で、江戸や明治時代の面影がある武家屋敷跡や商家、それに寺院や古い教会などがあります。

特に、印象に残った所は、国指定名勝・頼久寺の庭園です。江戸初期の完成で、備中国奉行で赴任していた小堀遠州が築いた見事な枯山水。散策に参加した9名は、暫し静寂な風景に前日の雨中の疲れが癒されました。

また、歩いた街道筋の一部が松竹映画「男はつらいよ」のロケ地になったそうで、”寅さん”の気分も味わえた、2時間足らずの散策でした。



紺屋川筋美観地区



頼久寺庭園

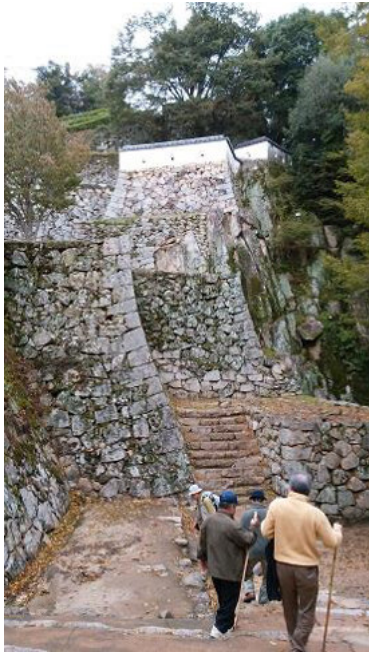


高梁基督協会

健脚組 備中松山城登城

健脚組16名は、ワゴンタクシーに分乗しふいご峠へ、そこから城まで急な登りです。

標高430mの臥牛山頂上付近に建つ天守は、国の重要文化財で、現存天守は山城としては日本で最も高いところにあり、今回で、燦歩会が大和高取城、岐阜岩村城とともに日本三大山城を制覇しました。中太鼓の丸跡をすぎ、大手門跡の先に天然の岩盤の上に築かれた石垣群に目が釘付けとなりました。この見事な石垣と土塀の画像は、大河ドラマ「真田丸」のタイトルにも使用されました。荒れていた天守は、昭和の大修理の際、鍛錬として女学生が瓦を背負って麓から持ち上げたそうです。時代ですね。



備中松山城石垣



備中松山城天守

奉仕作業（瓦の運搬）



松山城を後にし、銅とベンガラ
のまち「吹屋」に移動、昼食は元中
学校舎のレストランで、柔らかくて
旨い新見地鶏をいただきました。

ベンガラは黄銅鉱とともに産出さ
れる酸化鉄鋼をから作られる副産物
で建物の格子・塀に塗布、赤瓦とと
もに町全体がベンガラ色に染めら
れ、古き時代へタイムスリップさ
せてくれました。



吹屋町並 & ポスト



全員集合写真（吹屋）

* * * * *

今回の旅先「吉備路」は、大阪からは一寸半端な距離で、初訪問の人が多く楽しく学ぶことができました。台風に翻弄されましたが全員無事が一番でした。ありがとうございました。

余禄です。

備中高梁でのロケ「男はつらいよ」は、「寅次郎恋歌」（第8作）池内淳子さんがマドンナだったようです。で、他に映画のロケ地の一部を拾ってみると

- ・大河ドラマ「真田丸」タイトルバック 備中松山城
- ・東宝映画「県庁の星」 高梁JR伯備線沿い
- ・「男はつらいよ」第32作 高梁薬師院 マドンナ竹下景子さん
備中国分寺
- ・角川映画「バッテリー」 高梁中州公園
- ・松竹映画「八つ墓村」 吹屋「広兼邸」

原作者の横溝正史さんは、総社の隣町の真備町に疎開されたことがあり、この地にて「本陣殺人事件」などを執筆、金田一耕助を生み出しました。

映画のシーンを思い出されましたでしょうか。

* * * * *

ご 案 内

旧友会員の方、職員の方、入会大歓迎です。

入念な下見を行い、中途離脱も可能なルートを設定して、**毎月第4日曜日**に歩いています。メンバーはおよそ50名、その日の都合と体調に合わせて自由参加です。

（事前に予約が必要な場合もあります）

今後の予定

- 11月 京都一周トレイル（9年計画の第1回です）
- 12月 納会
- 1月 道明寺天満宮で初詣（大阪）
- 2月 どんづる峰を訪ねる（大阪・奈良）
- 3月 御坊と道成寺（青春18切符を利用 和歌山）

参加ご希望の方は、山村恵一にご連絡下さい。（電話 0743-20-4159）
ご一緒に気軽に楽しく歩きましょう。

山村恵一記